



小空間制作体験による児童の心理的効果に関する研究

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
澁谷年子



研究の背景

-児童の遊びの現状と空間の関係-

【児童の遊びの現状】

外遊びする児童の減少
他者との関わりが希薄化
遊ぶ時間・空間の確保が困難



ゲームに夢中な児童

【遊びの重要性】

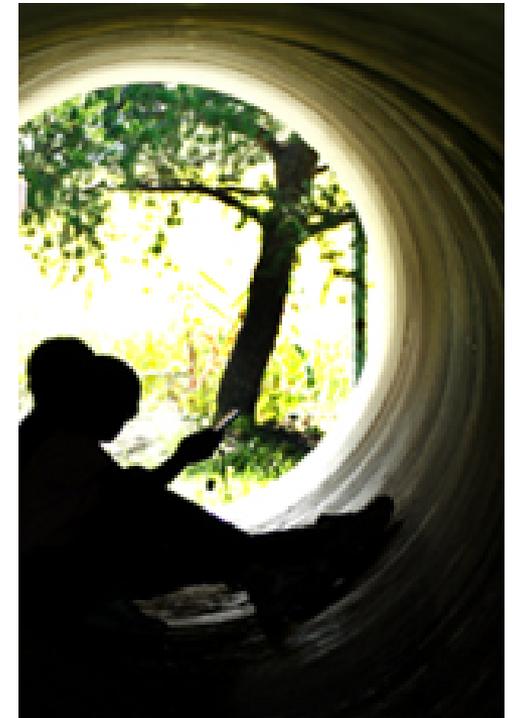
▶ 様々な場面で児童同士のやりとりにより社会的スキルの使用が含まれると言われている。



外遊びをする児童達

【小空間遊びの可能性】

▶ 児童だけの社会が構築される事で、児童の情緒面を刺激する場に成り得る可能性がある。



秘密基地・隠れ家で遊ぶ児童

研究の背景

-児童教育の現状と造形遊びの関係-

■学校教育方針改正の背景・問題

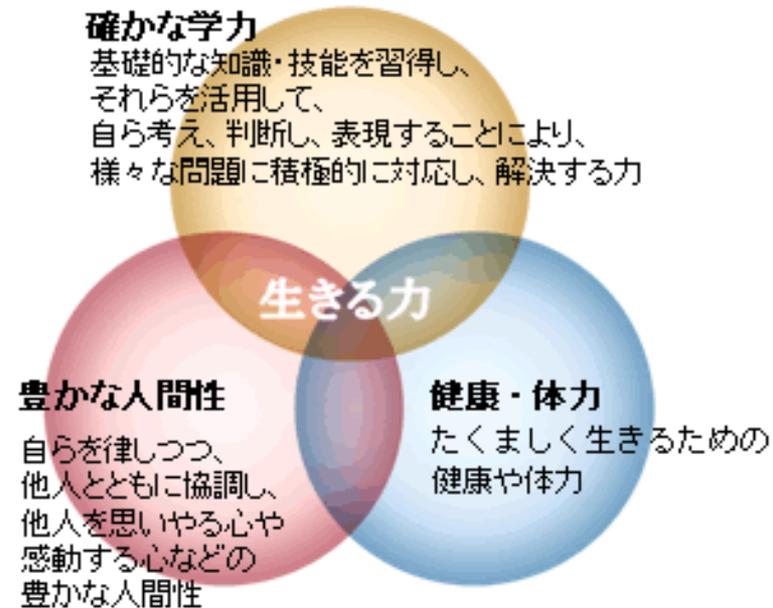
- ①国際学力調査における学力低下
- ②核家族化による子供の教育環境の変化
- ③日本が先進国とならび、他国から文化を模倣吸収する「記憶力」から創造発信していく「思考力」の重視



学校教育の新しい指針となる新学習指導要領が
施行された（平成20年（2008年）3月）



特に、「図工作・造形あそび」の授業では、**共同造形活動を通して**新たな力を獲得したり、自己発揮を体験したりして、学びの活性化と感性や理性を育み、**実社会での「生きる力」を養う事**が期待され、重要視されている分野である。



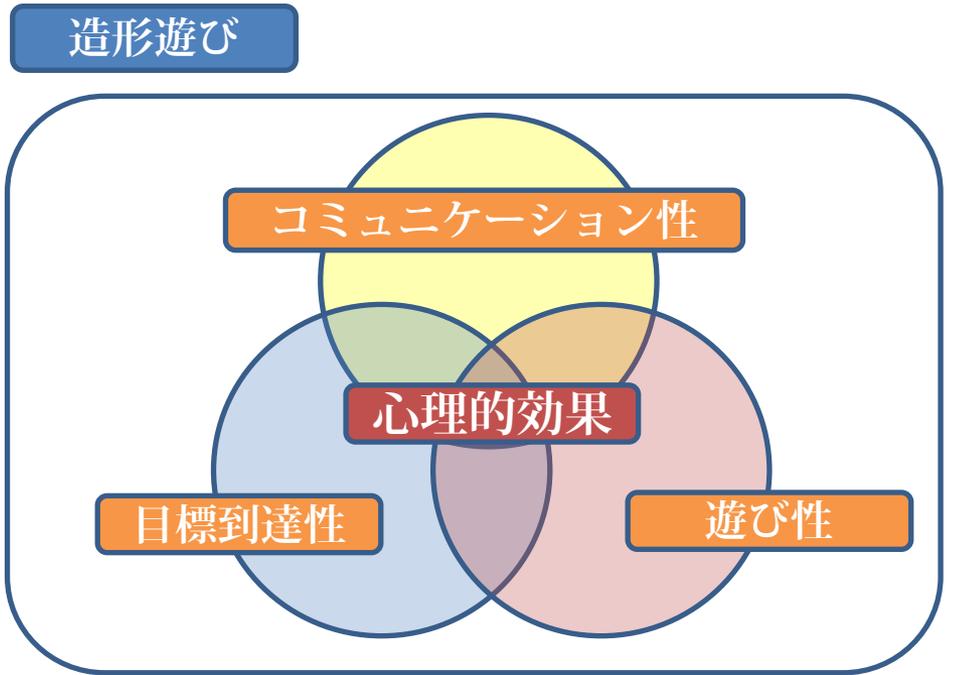
「生きる力」＝知・徳・体のバランスのとれた力
出典：文部科学省

先行研究と本論文の位置づけ

-先行研究による造形遊びの評価と課題-

■武蔵野美術大学 高橋ら（2002）による
「ワークショップ実践研究」
「美術と福祉とワークショップ」
ワークショップの実態から小学校教育の問題点を探り、ワークショップの意義を多数の実践比較により捉えている。

■目黒区美術館（2008）による
「目黒区美術館ワークショップ20年の記録（1987~2007）」
美術館内外に留まらず、ワークショップの実践を行い、様々なフィールドでプログラムの客観的評価を行い、ワークショップの意義を捉えている。

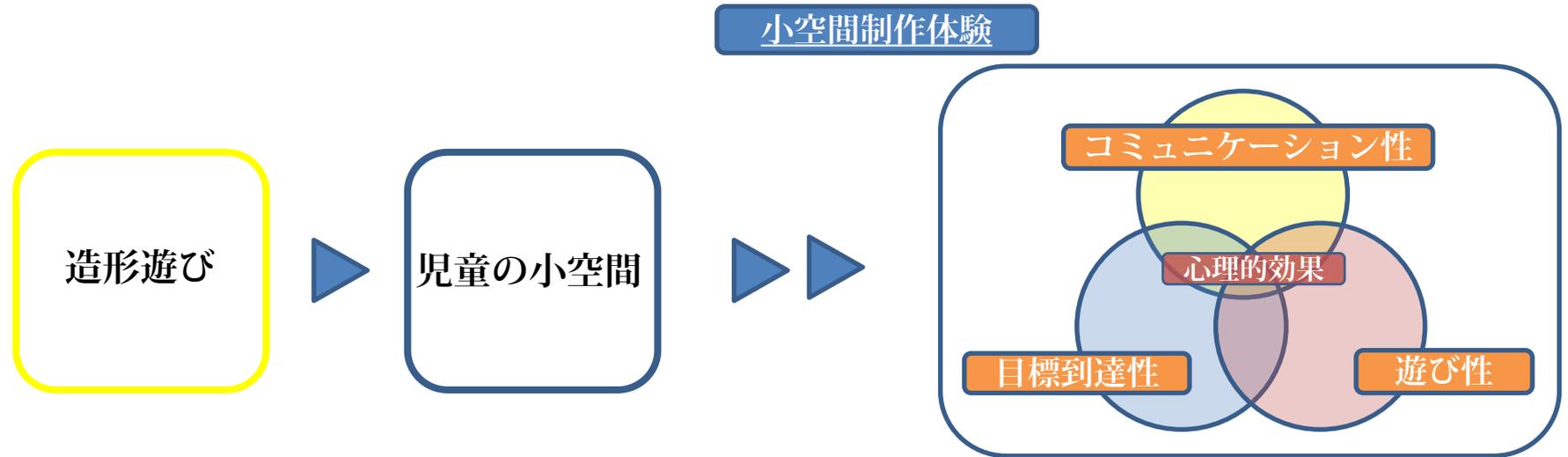


先行研究による造形遊びの評価軸

造形遊びのみならず、児童の遊びと空間的な心理効果を促すためには、
「**児童だけの小空間**」を自ら制作し、そこで遊ぶ行為が重要である。
よって、二者を融合する事で、造形遊びの新たな側面と成り得るのではないか。

研究の目的

本研究は、「小空間」を協同的に児童自ら制作できる道具を制作し、造形遊びとしての小空間制作が、「遊び性」「コミュニケーション性」「目標到達性」の評価を得られるか検証する事で、小空間と造形遊びの融合可能性を明らかにする。



研究の意義

実践を通じた、造形遊びの一事例として考察する事で、造形遊びとしての小空間制作の利用可能性と教育的な意義を知ることができる。

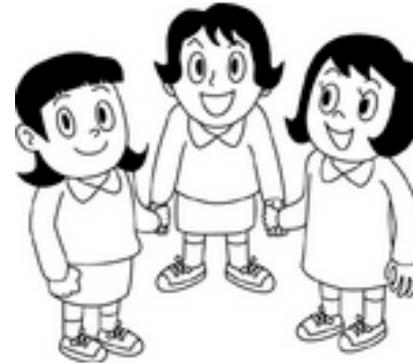
研究の対象となる児童について

児童期以降

学校などにより、仲間との共有時間が増加
特定の友人と親密な関係



特に小学校3・4年生は
親密な結束力を持つ数人からなる
「ギャング・エイジ」
という仲間集団が出現する



特徴

自分たちにしか通じない暗号ルールをつくり
仲間への忠誠や結束
他グループへの排他性

協同的に自分たちの
何かしらの領域を持ちたがる
欲求が生じる事が考えられる

研究の方法及びプロセス

Step1:造形遊びとしての小空間の設計条件の設定



Step2:道具の制作

- ①造形遊びとしての小空間「ワッカの家」の設計
- ②実物制作
- ③制作・使用実験



Step1:小空間の定義

中川 (1993)



「～の下」



「～の中」



「～の間」

菊田 (1997,1996)



「囲う」



「入る」

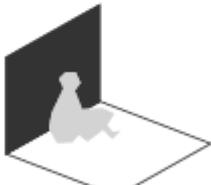


「隔てる」

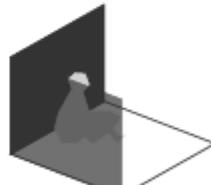
福良 (1995)



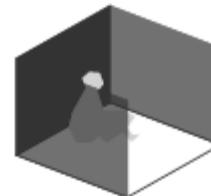
「占有地」



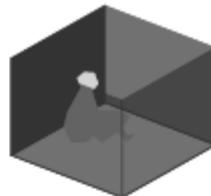
「背面安心」



「二方面安心」



「三方面安心」



「四方面閉鎖」

小空間とは、

児童の遊びの空間の一部として、「囲む」「入る」「隔てる」などの児童の行為と相互作用する事で、安心できる場となる物理的かつ心理的な空間

と定義する。

Step1:造形遊びの定義 (出典：小学校学習指導要領・図工作編の解説と展開 /安彦忠彦監修)

文部科学省「小学校学習指導要領」 に基づく造形遊びの例



「牛乳パック小物入れ」



「ねんどたいそう」

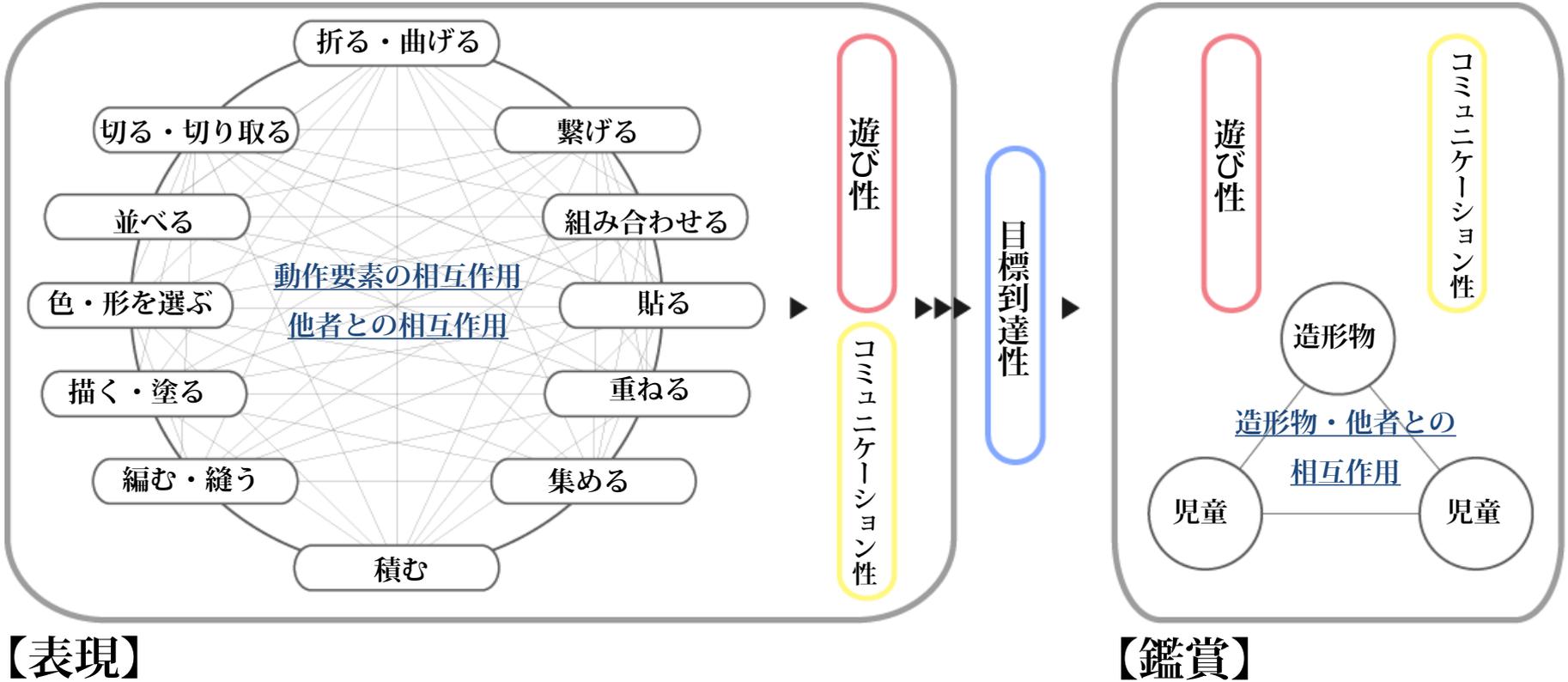
造形遊びとは、

児童が材料などに、主体的に働きかけ、発想を広げながら、用具を選び、試行錯誤をして、身体全体を使って取り組む造形活動

と定義する。

Step 1:造形遊びの特徴 (参考：小学校学習指導要領・図工作編の解説と展開 /安彦忠彦監修)

小学校学習指導要領に基づく造形遊びの特徴



造形遊びの特徴を基に

児童が囲まれる、入り込める、隔てる空間構造の造形遊びとしての小空間を設計する。

Step1:造形遊びに必要な項目の抽出

児童のイメージを働かせる要素
として



- ・色や形・大きさの選択性
- ・自由に組みかえ可能なシステム
- ・結合・分離の可能性

児童の作業性に関する要素
として



- ・素材の合理性
- ・結合・分離の簡易性
- ・安全性の確保

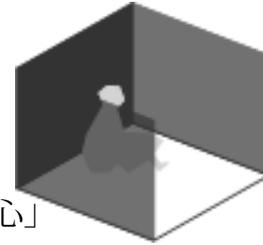
Step1:設計条件の設定

【造形遊びの特徴から挙げられる必要項目】

- ①色や形・大きさの選択性
- ②自由に組みかえ可能なシステム
- ③結合・分離の可能性と簡易性
- ④素材の合理性
- ⑤安全性の確保

【小空間の空間構造モデル】

児童が囲まれる、入り込める
外と自分を隔てる事で生まれ
る安心空間の構造の実現

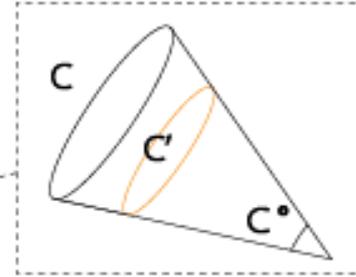
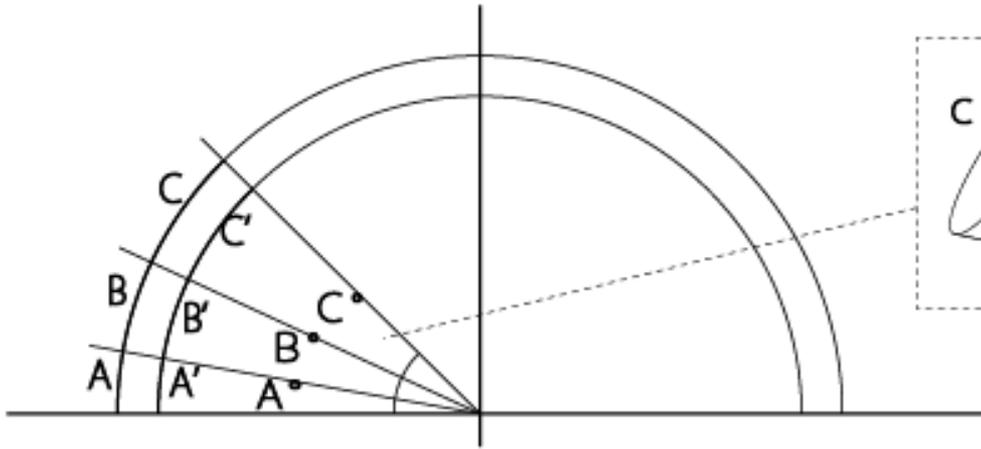


例：「三方面安心」

【使用時に求められる課題】

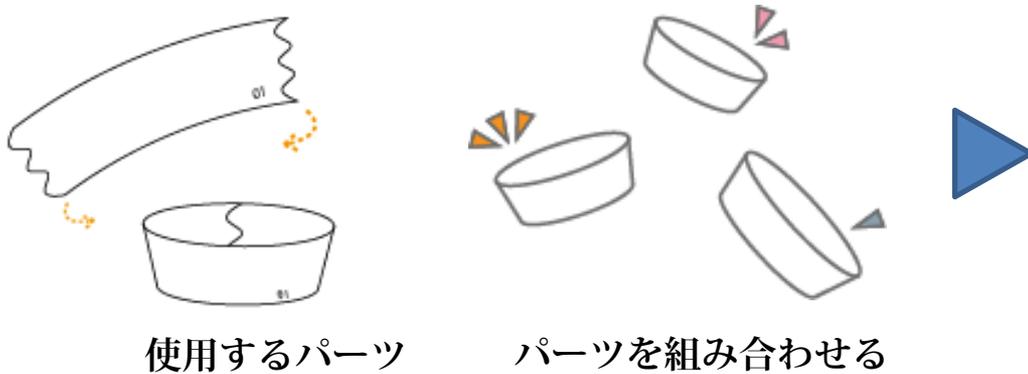
- ①耐久性の確保
- ②再利用可能性
- ③運搬可能性

Step2:造形遊びとしての小空間「ワッカの家」の設計



外半円と内半円の曲率が同じなため、
角度 θ が異なっても接着が可能になる。

自由に組みかえ可能なシステム



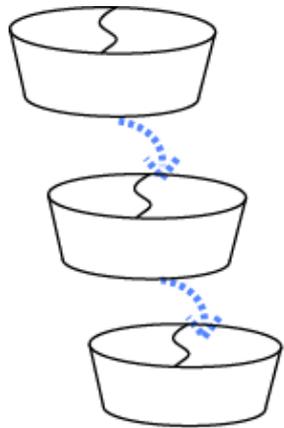
使用するパーツ

パーツを組み合わせる

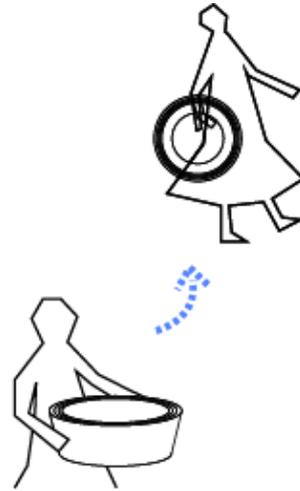
児童を囲むポラスなドーム空間



Step2:造形遊びとしての小空間「ワッカの家」の設計



重ねる



ポータブル化

形・大きさの選択性

運搬可能性



ポリプロピレンの0.75mm厚のボード。

- ・耐薬品性・耐水性に優れる。
- ・折り曲げ反復に強い
- ・電気絶縁性が高く熱に強い。

素材-ppクラフトシート-



接合 (ガチャック)

色の選択性

素材の合理性

再利用可能性

結合・分離の可能性・簡易性

Step2:小空間の制作・使用

組み立て・使用実験



完成後、約一日、外に設置した→形状には変化なし

内部に入り、寄り掛るなどの衝撃を与えた
→素材の柔軟さもあり、衝撃に耐えた



耐久性の確保

安全性の確保

Step3:小空間制作実験の詳細

【親子ワークショップ】

実施日 : 2012年10月27日 (土)
10:00~11:30

被験者 : 男子児童1名 / 母親 / 父親
実施場所 : 筆者の自宅内



【児童ワークショップ】

実施日 : 2012年11月19日 (月)
16:00~17:40

被験者 : 男子児童2名
実施場所 : 筆者の自宅内



【多人数児童ワークショップ】

実施日 : 2012年12月8日 (土)
10:00~12:00

被験者 : 女子児童4名
実施場所 : 筆者の自宅内



児童の言動を観察し、三要素に分類し検証する。

児童を取り巻く環境より

3
パ
タ
ー
ン
の
実
験

親子 (児童1名と両親)

児童のみ (児童2名)

多人数児童のみ (児童4名)

—
差
し
引
く

各環境要因に
よる
他の影響

=

実験の効果

Step3:制作段階の分類結果

検証段階	親子WSにおける実証場面項目	児童WSにおける実証場面項目	多人数での児童WSにおける実証場面項目
制作段階	遊び性 【ドーム全体を見て、色を試行錯誤する場面】 【隙間に合うワッカの大きさを試行錯誤する場面】 【ドームの外側・内側に分かれて、ワッカを留める場面】 3項目	【ドーム全体を見て、色を試行錯誤する場面】 【隙間に合うワッカの大きさを試行錯誤する場面】 【隙間に合うワッカの大きさと色を試行錯誤する場面】 【お互いのワッカを繋げる場所を試行錯誤する場面】 【ドームの外側・内側に分かれて、ワッカを留める場面】 【ワッカ同士を留める・外すか検討する場面】 6項目	【ドーム全体を見て、色を試行錯誤する場面】 【隙間に合うワッカの大きさを試行錯誤する場面】 【隙間に合うワッカの大きさと色を試行錯誤する場面】 【お互いのワッカを繋げる場所を試行錯誤する場面】 【ドームの外側・内側に分かれて、ワッカを留める場面】 【ワッカ同士を留める・外すか検討する場面】 6項目
	コミュニケーション性 【隙間に合うワッカの大きさを試行錯誤する場面】 【留めにくい箇所のワッカを親に押さえてもらう場面】 【ガチャック玉の補充をする・しあう場面】 【ドームの外側・内側に分かれて、ワッカを留める場面】 【完成したドームを鑑賞する場面】 5項目	【ドーム全体を見て、色を試行錯誤する場面】 【隙間に合うワッカの大きさを試行錯誤する場面】 【隙間に合うワッカの大きさと色を試行錯誤する場面】 【留めにくい箇所のワッカを他者に押さえてもらう場面】 【繋げたワッカを一緒に運ぶ場面】 【お互いのワッカを繋げる場所を試行錯誤する場面】 【ドームの外側・内側に分かれて、ワッカを留める場面】 【ワッカ同士を留める・外すか検討する場面】 【ガチャック玉の補充をする・しあう場面】 【完成したドームを鑑賞する場面】 10項目	【ドーム全体を見て、色を試行錯誤する場面】 【隙間に合うワッカの大きさを試行錯誤する場面】 【隙間に合うワッカの大きさと色を試行錯誤する場面】 【留めにくい箇所のワッカを他者に押さえてもらう場面】 【繋げたワッカを一緒に運ぶ場面】 【お互いのワッカを繋げる場所を試行錯誤する場面】 【ドームの外側・内側に分かれて、ワッカを留める場面】 【ワッカ同士を留める・外すか検討する場面】 【ガチャック玉の補充をする・しあう場面】 【完成したドームを鑑賞する場面】 10項目
	目標到達性 【完成したドームを鑑賞する場面】 1項目	【完成したドームを鑑賞する場面】 1項目	【完成したドームを鑑賞する場面】 1項目

【三要素の分類例】



【遊び性】



【コミュニケーション性】



【目標到達性】

Step3:使用段階の分類結果

検証段階	親子WSにおける実証場面項目	児童WSにおける実証場面項目	多人数での児童WSにおける実証場面項目
使用段階	遊び性 【大人は入れない「秘密基地」空間になった場面】 【外側・内側の分かれて「モグラたたき」をする場面】 【ドーム全体を使い、洋服と見立てて遊ぶ場面】 【残ったワッカにガチャ玉を投げる「ガチャ玉投げ遊び」をする場面】 4項目	【ドーム内に寝転がり、ワッカをメガネに見立てて遊ぶ場面】 【外側・内側の分かれて「モグラたたき」遊びをする場面】 【ワッカにガチャ玉を飛ばす「玉飛ばし遊び」する場面】 【完成したドームに入り口を新たにつくる場面】 【「レスキューごっこ」をする場面】 【ワッカを身につけ「ロボットごっこ」をする場面】 【ワッカで「積み木遊び」をする場面】 7項目	【色々なワッカの穴から「穴くぐり遊び」をする場面】 【外側・内側の分かれて「モグラたたき」をする場面】 【ドームを隔てて、追いかっこをする場面】 【残ったワッカで「積み木遊び」をする場面】 4項目
	コミュニケーション性 【大人は入れない「秘密基地」空間になった場面】 【ドーム内に寝転がりながら、日常会話をする場面】 【外側・内側の分かれて「モグラたたき」をする場面】 【ドーム全体を使い、洋服と見立てて遊ぶ場面】 【残ったワッカにガチャ玉を投げる「ガチャ玉投げ遊び」をする場面】 【完成したドームに入り込む場面】 6項目	【ドーム内に寝転がり、ワッカをメガネに見立てて遊ぶ場面】 【外側・内側の分かれて「モグラたたき」遊びをする場面】 【ドーム内に寝転がり、日常会話をする場面】 【ワッカにガチャ玉を飛ばす「玉飛ばし遊び」する場面】 【完成したドームに入り口を新たにつくる場面】 【「レスキューごっこ」をする場面】 【ワッカを身につけ「ロボットごっこ」をする場面】 【完成したドームに入り込む場面】 【ワッカで「積み木遊び」をする場面】 9項目	【色々なワッカの穴から「穴くぐり遊び」をする場面】 【ドーム内に座り込み、日常会話をする場面】 【外側・内側の分かれて「モグラたたき」をする場面】 【ドームを隔てて、追いかっこをする場面】 【完成したドームに入り込む場面】 5項目
	目標到達性 【完成したドームに入り込む場面】 1項目	【完成したドームに入り込む場面】 1項目	【完成したドームに入り込む場面】 1項目

【三要素の分類例】



【遊び性】



【コミュニケーション性】



【目標到達性】

Step3:片づけ段階の分類結果

検証段階		親子WSにおける実証場面項目	児童WSにおける実証場面項目	多人数での児童WSにおける実証場面項目
片づけ段階	遊び性	【色を決めて片付け競争する場面】 【ドームを周辺を囲んで皆で崩す場面】 【色別に集めたワッカの数字並べをする場面】	【チーム・色を決め、片付け競争する場面】 【ドームを周辺を囲んで皆で崩して遊ぶ場面】 【色別集めたワッカの数字並べをする場面】	【内側・外側に分かれてドームを崩して遊ぶ場面】 【色別集めたワッカの数字を並び替える場面】
	コミュニケーション性	【色を決めて片付け競争する場面】 【ドームを周辺を囲んで皆で崩す場面】 【色別に集めたワッカの数字並べをする場面】	【チーム・色を決め、片付け競争する場面】 【ドームを周辺を囲んで皆で崩して遊ぶ場面】 【色別集めたワッカの数字並べをする場面】	【内側・外側に分かれてドームを崩して遊ぶ場面】 【色別集めたワッカの数字を並び替える場面】 【片付ける色を決める場面】
	目標到達性	【番号順に並べ、片付けが終了した場面】	【番号順に並べ、片付けが終了した場面】	【番号順に並べ、片付けが終了した場面】
		3項目	3項目	2項目
		3項目	3項目	3項目
		1項目	1項目	1項目

【三要素の分類例】



【遊び性】

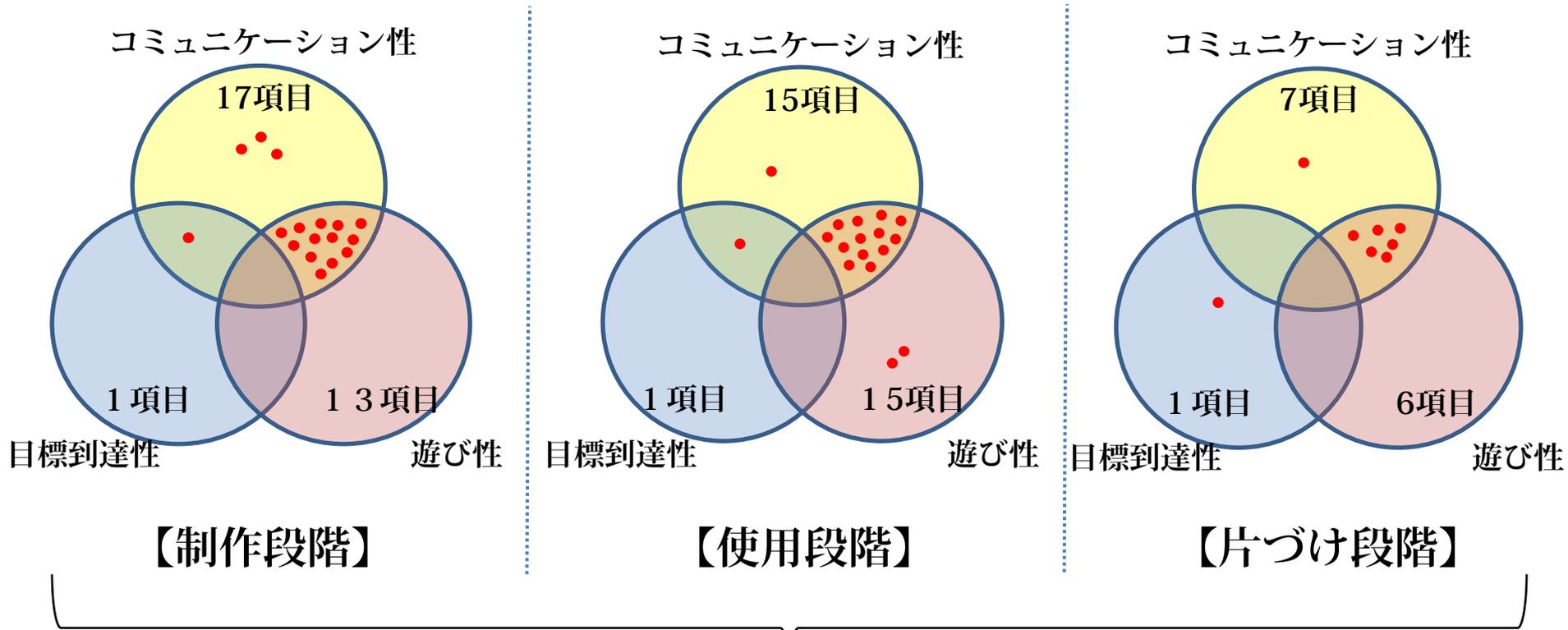


【コミュニケーション性】



【目標到達性】

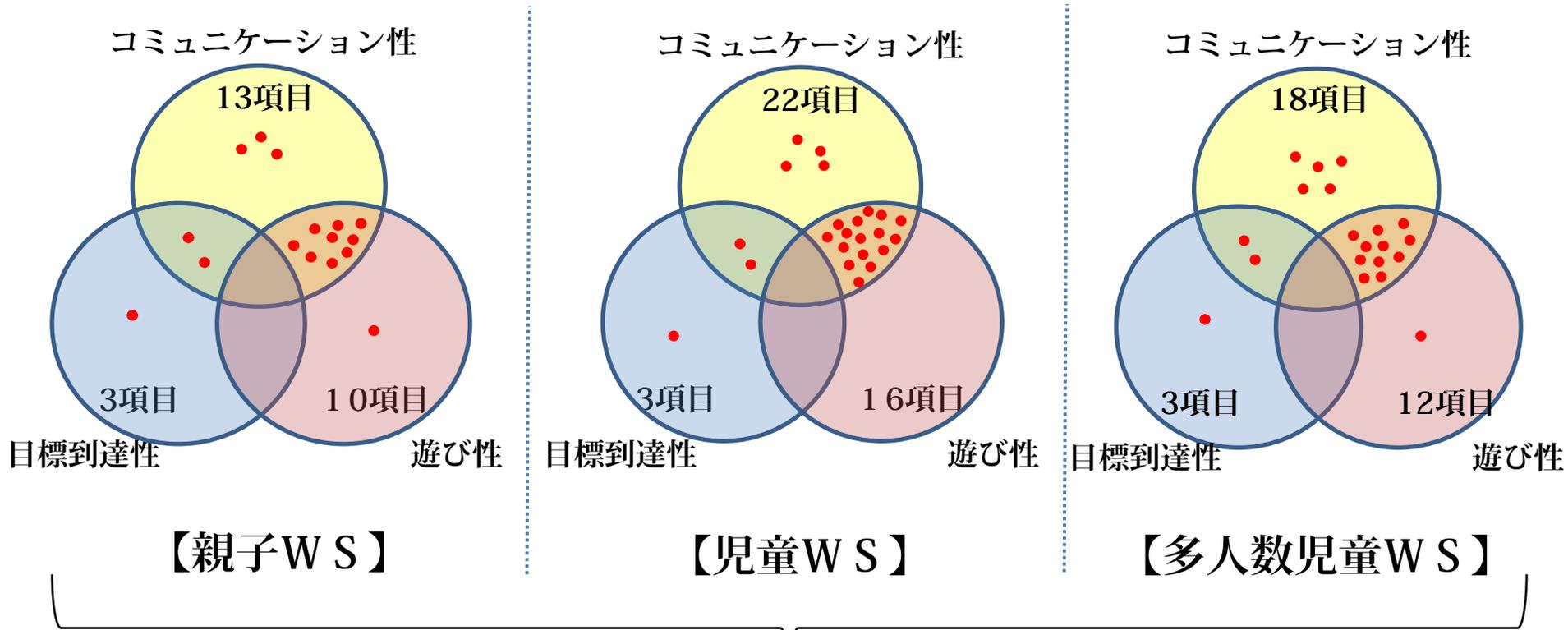
Step3:各段階別の検証結果整理



分類した項目を三要素の図にマッピングを行った結果

各段階において、造形遊びの評価である三要素を満たした事が検証できた。

Step3:各実験別の検証結果整理



分類した項目を三要素の図にマッピングを行った結果

各実験においても、造形遊びの評価である三要素を満たした事が検証できた。

Step4:小空間制作実験全体の結果整理と結論

- 制作段階
- 使用段階
- 片づけ段階

コミュニケーション性

- 留めにくい箇所のワッカを他者に押さえてもらう場面
- ガチャック玉の補充をする・しあう場面
- 繋げたワッカを一緒に運ぶ場面
- 片づける色を決める場面

- 完成したドームを鑑賞する場面
- 完成したドームに入り込む場面

造形遊びの評価である三要素を満たした。

「小空間」と「造形遊び」融合可能

- 番号順に並べ、片付けが終了した場面

- 残ったワッカで「積み木遊び」をする場面
- 残ったワッカにガチャ玉を投げる「ガチャ玉投げ遊び」をする場面

目標到達性

遊び性

- ドーム全体を見て、色を試行錯誤する場面
- 隙間に合うワッカの大きさを試行錯誤する場面
- 隙間に合うワッカの大きさと色を試行錯誤する場面
- ドームの外側・内側に分かれて、ワッカを留める場面
- お互いのワッカを繋げる場所を試行錯誤する場面
- ワッカ同士を留める・外すかを検討する場面

- 大人は入れない「秘密基地」空間になった場面
- ドーム内に寝転がりながら、日常会話をする場面
- 外側・内側に分かれて「モグラたたき」をする場面
- ドーム全体を使い、洋服と見立てて遊ぶ場面
- 残ったワッカにガチャ玉を投げる「ガチャ玉投げ遊び」をする場面
- ドーム内に寝転がり、ワッカをメガネに見立てて遊ぶ場面
- ワッカにガチャック玉を飛ばす「玉飛ばし遊び」をする場面
- 完成したドームに入り口を新たに作る場面
- 変更後、「レスキューごっこ」をする場面
- 色々なワッカの穴から「穴くぐり遊び」をする場面

- ドームを隔てて、追いかっこをする場面
- ワッカで「積み木遊び」をする場面
- ワッカを身につけ「ロボットごっこ」をする場面

- 色を決めて片付け競争する場面
- ドームを周辺を囲んで皆で崩す場面
- 色別に集めたワッカの数字並べをする場面
- 内側・外側に分かれてドームを崩して遊ぶ場面
- 別集めたワッカの数字を並び替える場面
- チーム・色を決め、片付け競争する場面



小空間制作特有の結果

Step4:小空間制作特有の項目

【小空間制作特有の項目例】



【もぐらたたき遊び】



【基地からレスキューごっこ】



【空間を占有する】



小空間が出来た事で、
自分達で制作した空間を占有し
児童の世界を創る行為

▶ 小空間を道具とした
更なる遊びを発現する行為

が確認できた。

総括

Step1:造形遊びとしての小空間の設計条件設定



Step2:道具の制作



Step3:児童による小空間制作体験実験

造形遊びの評価である三要素「遊び性」「コミュニケーション性」

「目標到達性」を検証した。

よって、「小空間と造形遊び」の融合可能性を実証した。

造形遊びとしての小空間制作特有の項目を導くことが出来た

今後の展望と課題

本研究の範囲

「造形遊びとしての小空間」の道具の制作から実験を通して、
「小空間と造形遊び」の融合可能性
を実証した。

本研究は、造形遊びとしての小空間制作の一事例にすぎない。

今後の展望・課題

造形遊びにおける小空間制作の可能性を開くものとして、
①様々なタイプの実施例の継続的研究
②本研究・①を基に、小空間制作が児童に及ぼす影響
について考察する。

小学校授業や地域の児童交流施設などの教育プログラムとして、応用していきたい。



小空間制作体験による児童の心理的効果に関する研究

ご清聴ありがとうございます。

ご指導して下さった主査・副査の先生方
本当にありがとうございました。

